

最新の半導体市場動向、セキュアフラッシュメモリの情報を知りたい方へ

日々変動する半導体市況において、メモリ製品の動向は大きな指標になっています。今回は先端製品だけでなくレガシー品の最新状況についても各メーカの動向に沿って説明しました。

また、産業向けセキュリティ標準IEC62443の説明や、IoT機器に最適なウィンボンド社が持つセキュアフラッシュメモリのユースケースを含めた紹介を、デモを交えながら実施しました。200名を越えるお客様にご参加いただいたウェビナのハイライトレポートをお届けします。

メモリ半導体市況

メモリ市場は半導体市場の動きを大きく作用します。メモリ市況を見るうえではDRAMの動向が大きな指標となり、その中でも大手3社の先端製品が売上金額の約96%を占めています。更に先端製品の中でもHBMの売上・投資が伸びており、24年末には15~20%シェアを目指しています。

但し、大手3社が先端製品に注力する影響で、DDR3/4等レガシー品のキャパシティが2025年には大幅に減少する可能性があり、その影響でレガシー品の市況もひっ迫すると見込まれています。

先端製品を持っている大手メーカは2024年に大幅に売上を回復させていますが、逆に先端製品を持っていないメーカはまだ売上が回復しておらず、2極化となっています。

IEC62443要件とTrustME[®]セキュアフラッシュメモリ新ユースケースのご紹介

IoT機器を取り巻く法規制対応は待たなしの状況となっています。特にEU市場のCRA（EUサイバーレジリエンス法）は2024年下期に施行され2027年には完了の予定となっています。

産業向けセキュリティ標準IEC62443の要件は多くあり、セキュリティの基本要素、認証・完全性・秘匿性・可用性を理解する必要があります。

IoT機器へのサイバーセキュリティ対策方法は複数存在しますが、産業機器で使用されている製品はレガシー品も多く、寿命も長い為置換え等の対策が難しいのが現状です。

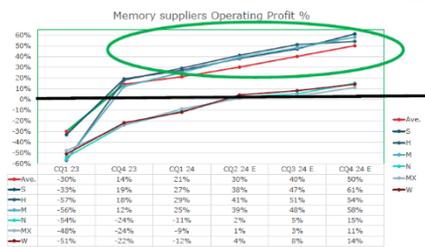
セキュアフラッシュは既存のIoTデバイスへのデータ通信の暗号化・認証機能を、BOMコストを増やさず、またセキュアエレメントのソフトウェア開発コストも必要とせずアドオンすることが出来ます。

■ 本日の登壇者 ■

ウィンボンド・エレクトロニクス株式会社
永持 智明 氏
小野 真人 氏



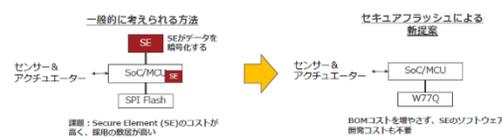
Profitability improvement : Memory suppliers



Profitability improvement : Memory suppliers

出所：投影資料より一部抜粋

IoTデバイスにデータ通信の暗号化・認証機能をアドオン



IoTデバイスにデータ通信の暗号化・認証機能をアドオン

出所：投影資料より一部抜粋

[他記事、ウェビナ、お問い合わせはこちら](#)



エンジニアによりそうマガジンサイト